

2. 事業の概要

2-1. 事業報告

京都文教大学

建学の理念を具体化し、学生と社会から評価される大学を実現させるための事業を行うとともに、自己点検・評価による課題発見と解決に努め、健全な財政運営を基本に据えて大学事業を進めた。また、10年先を見据え、2014年度から2018年度までの中期計画を策定した。

1. 教育・研究の充実と活性化のための事業

- (1) 総合社会学部では、さらなる教育・研究の発展をめざし、従来の2学科を統合した「総合社会学科」を平成25年4月にスタートさせた。学部・学科教育のわかり易さを目的に平成24年4月に始めた5コース制については、今年度、安定的運用を図ることで学部学生の満足を高めることに努めた。また、新たに「地域公共政策士」第1種プログラムを立ち上げるなどキャリア支援体制の充実を図り、学生の進路決定率の向上に努めた。
- (2) 臨床心理学部臨床心理学科保育福祉支援コースをベースにした教育福祉心理学科設置が認可されたことに伴い、同学科のこども教育心理専攻では新たに小学校教員の養成を開始した。また、保育福祉心理専攻では従来通り精神保健福祉士、保育士を養成し、本格的に国家資格取得を目指した学科を船出させた。
- (3) 文化人類学研究科では、本学初の私費留学生在が修士課程を無事に修了した。また、廈門大学嘉庚学院の学生を対象に指定校推薦入試を実施し、翌年度に1名の私費留学生を迎えることが決定した。さらなる関係強化のもと、継続的に留学生を受け入れる体制づくりが進められた。
- (4) 臨床心理学研究科では、カリキュラムの見直しによる教育体制の充実化、社会人入試の実施による学生募集の強化を行った。
- (5) 海外協定校である韓国・湖西大学に2名の学生が短期留学を行った。また、京都文教短期大学の協定校であるカナダのトンプソン・リバーズ大学での夏期集中語学研修にも大学からは5名が参加した。さらに、日本学生支援機構留學生交流支援制度（短期派遣）の奨学金を得て、4名が参加した総合社会学部の中国フィールドワーク実習も、天津商業大学との提携関係のもと3ヶ月間にわたり実施されるなど、海外協定校への学生派遣が順調に進んでいる。
- (6) 教育支援課が事務局となり、年間9回のFD委員会を開催した。平成25年度は「初年次教育についての情報共有」「授業をよりよくするためのアンケートの有効利用」「学生満足度を向上させる施策の検討」を重点項目にし、下記の案件を実施した。
①初年次教育の連携マップの作成 ②授業評価アンケート（各学期 中間・期末 計4回）の実施と学生へのフィードバック、および授業改善に向けたシステムの再構築 ③企画室と協働で実施した学生生活実態調査の分析 ④学生自治会とタイアップして、学生満足度向上のための課題解決 ⑤3回のFD講演会（内、1回は産学協働教育推進委員会と共催の就業力ワーキング勉強会） ⑥補講欠席者向け授業ビデオ配信の試行 ⑦数学学習目標診断テスト・新入生アンケートの実施 ⑧FSDレポートの発行
- (7) 新学部、新学科に柔軟に対応した全学共通カリキュラムをスタートさせた。また、本学における共通教育の充実と、時代にふさわしい教養教育を確立するための協議機関について検討した。また、体育実技等の教育環境の改善を継続し、外国語科目の改善を一部図った。

- (8) 高校教育と大学教育の円滑な接続のために、早期に入学が決定したAO・推薦（専願）等の入試合格者に対し、入学前教育として、①表現力アップ通信講座 ②「Inspire数学の基礎」問題集をメインとして実施した。また、Word・Excelが使えない入学予定者の為にパソコン入門講座を開催した。また、新入生向けにリメディアル教育として、①数学リメディアル講座 ②英語リメディアル講座を春学期・秋学期に実施した。導入教育として重要な位置づけにある初年次演習は平成25年度も継続して学科の専任教員が担当し、新入生が順調に学習活動へ入れるようにした。
- (9) 科学研究費の本年度新規採択件数は6件となり、昨年度の公募申請の増加にともない採択数も増えた。本年度も申請件数は10件となり2年連続2桁の件数を得た。また他大学科研費での研究分担者数は延17人となった。本年度も研究活動振興のための各種情報を周知すべく、助成情報を教員に配信した。
- (10) 産業メンタルヘルス研究所による研究・教育・実践活動を通じて、社会貢献に努めた。主な取り組みは以下の通りである。
- ①産官学連携活動として、官公庁・企業・病院等における職員研修の要請に対して、それぞれの職域や階層に応じたメンタルヘルス研修を企画し、提供した。
 - ②産業領域で活躍できる臨床心理士の養成を目指した産業心理臨床家養成プログラムは、4期生10名と5期生14名のあわせて24名が受講した。4期生の10名は、2年間にわたるプログラム（計40週、80コマ）の課程を修了した。産業精神保健分野で活躍する受講者が増加し、内容も好評であった。
 - ③平成25年11月、海外研究者・実践者招聘事業4年目として米国組織コンサルタント3名を招聘し、組織心理コンサルテーションセミナーを開催し、臨床心理士、中小企業診断士等30名の参加が得られた。なお、この招聘事業を通じて、中小企業診断協会京都支部会員との組織コンサルテーション研究会を開催し、共同事業を目指した研究活動が進んでいる。
- (11) 人間学研究所は本学教員の学際的共同研究を推進する役割を果たすとともに、独自企画のイベントを2件行った。「歩く姿の美しい学生が日本一多い大学を目指す」という思いのもと、本学学生を対象としたワークショップとして「京都文教“指月スタイル”ウォーキングセミナー」を企画し、「美しく、正しく歩くこと」を専門家の指導により習得するセミナーを5月29日、6月1日の2日間にわたり開催した。また、2月11日には「日本の大学、このごろ焦ってませんか？ ～『社会に役立つ大学』の価値を問う」と題した公開シンポジウムをキャンパスプラザ京都にて行い、学内外から約40名の来場者を得て大学教育を取り巻く現状と、教育・研究活動の本質論を改めて論じ合う機会を創出した。
- (12) 中期計画の一環として、KBU学士力を選定した。

2. 学生支援事業

- (1) 「1・2回生からの学生生活をいかに充実させるか」ということが進路につながるという考えで、事務局員による入学後のフォローを学生部が企画し面談を9月に行なった。
- (2) 学生自治会が中心となり3on3大会、フットサル大会、そして今年は新たに運動会を実施、多数の学生が参加し、学内が大いに盛り上がった。
- (3) 3年目になる震災復興支援を福島県相馬市（27名）、宮城県石巻市・南相馬市（24名）、宮城県仙台市（24名）を実施し、本学と被災地との信頼関係の醸成が進んでいる。
- (4) 入学から卒業までの体系的なキャリア支援体制の構築を行い、正課のキャリア教育科目と課外のガイダンスや資格取得講座などを通じて、学生生活の充実を促し、卒業後の進路意識の涵養に努めた。
- (5) 学生および教職員の健康状態を把握し、必要なサポートが行えるよう、①健康診断 ②入学予定者への麻疹ワクチン接種の呼びかけと感染症に関するアンケート調査 ③新入生並

びに在学生に対する健康アンケート調査 ④エイズ啓発活動、禁煙活動の実施に取り組んだ。このような予防的な施策により、学生の健康管理に対する意識が向上し、学生からの届け出も密になり、特に感染症の拡大防止に奏功している。

3. 学生募集に関する事業

- (1) 3年連続増加した総志願者数を当該年度も確保するため、昨年度有効であった企画を継続実施したが、入試ランクがアップしたことによる敬遠や併願大学の変化により受験生は減少した。全体定員は確保したが、教育福祉心理学科のこども教育心理専攻については歩留り予測が困難な入試となった。来年度入試においてはAO入試を新規実施するなど早期の定員確保を行いたい。
- (2) オープンキャンパスの実施だけでは、併願入試による入学予定者の確保が不十分なため臨床心理学部の見学会や卒論発表会見学会など新たな企画を行った。特に2月実施のイベントについては、参加者の80パーセントが入学した。この種のイベントを来年度は、5回程度実施予定である。

4. 大学財政基盤の強化・充実のための事業

平成25年度に教育福祉心理学科を設置したことにより、臨床心理学部の入学定員が20名増(入学者93名)となり、完成年度に向けて財務基盤強化に寄与するものと思われる。

5. 地域連携事業

- (1) 地域連携学生プロジェクト、サテライトキャンパス事業、宇治市高齢者アカデミーの開講などを通じて、地域および社会との連携を深め、「現場主義教育モデル」の構築と社会貢献活動の実践を行った。
- (2) 広野・大久保地域における生涯学習事業体制の整備、「京田辺ワーク・ライフ・バランス推進会議」での事業推進、伏見区基本計画に基づいた「伏見連続講座」の実施、「京都文教マイタウン向島」を拠点としたまちづくりへの支援などを行った。
- (3) 大学間連携共同教育推進事業の連携校として、「文化コーディネーター養成プログラム」「地域マネージャー養成プログラム」などの地域資格制度プログラムを立ち上げ、地域連携活動と実践教育を推進した。
- (4) 京都文教公開講座「京都文教教養講座」8講座、「いきいき健やか講座」2講座、「あおい講座」4講座を開講した。「京都文教教養講座」は、大学の2学部と短期大学の幼児教育学科が各固有のテーマのもとに、その専門性が表われる講座を実施した。「気功入門講座」「すくすく子育て講座」「やさしいヨガ」「食育講座」において保育を実施したことにより、受講者層に変化がみられ異世代交流の場ともなった。
- (5) ボランティア演習を宇治市教育委員会と宇治市社会福祉協議会と連携して、地域の学校・関係施設で実施し、大学内においても交流の機会を持った。

6. 大学評価に係る事業

- (1) 平成24年度に受審した大学基準協会による第三者評価結果を生かし、平成25年度の自己点検・評価を実施した。
- (2) ホームページの一層の充実を図るとともに、Facebookを活用した大学の広報活動を開始した。

7. 総合社会学部・臨床心理学部改組等に伴う事業

(1) 広報事業

平成25年度の総合社会学部設置ならびに臨床心理学部改組に伴い、広報事業を実施した。

(ア) 総合社会学部

① 広河隆一写真展・講演会 (10月・11月)

(イ) 臨床心理学部

① 中村獅童講演会『心を鍛え、体を鍛え、魂の声を聴く』(8月)

② 連続シンポジウム「心理臨床と地球の未来 31世紀のころを占う」(10～11月)



(2) 教育福祉心理学科の教材備品等の整備

教育福祉心理学科の開設に伴い、以下のとおり教材備品を整備した。

- ・ 家庭科室、理科室、図画・工作室、音楽室および体育館の教材備品の整備
- ・ 模擬保育室、小学校模擬教室の整備
- ・ ピアノ個人練習室の整備
- ・ 精神保健福祉士の教材備品の整備
- ・ 教職・保育福祉職サポートセンターの整備

【模擬保育室】



【小学校模擬教室】



【ピアノ個人練習室】



【音楽室備品（ピアノ）】



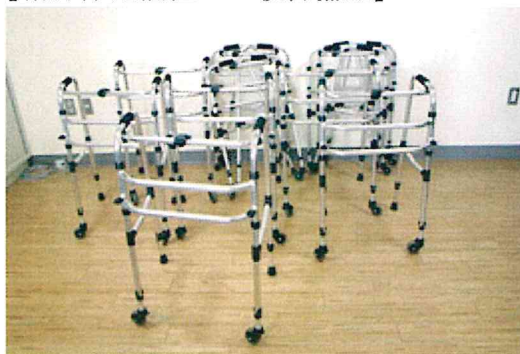
【理科室備品】



【家庭科室備品】



【精神保健福祉士の教材備品】



【教職・保育福祉職サポートセンター】



(3) 実習支援システム導入報告

宇治キャンパス内統一の実習教育支援システム導入により、短大・大学間で実習に関する情報の共有が可能となり、様々な場面をサポートできるしくみが整った。

8. その他

(1) 高大連携委員会を中心として学園連携推進室と協働し、京都文教高校とのアドバンストレクチャープログラムとして年間19回の授業を実施した。また、高校3年間の中で、オープンキャンパスへの参加、キャンパス訪問、模擬授業への参加、ALP説明会等を組み合わせ、流れのあるプログラムを実施し、連携の強化を図った。平成25年度も京都文教中学2年生全員のキャンパス訪問を実施し、中学・高校・大学の流れの定着を図った。また、京都文教高校出身者の会「弥友羅」を中心に、入学式・卒業式の行事の手伝い、京都文教高校のキャリアプログラムの中で大学紹介等を行った。

(2) 上宮高校プレップコースとの連携を強化するため、連携プログラムの見直しを行い、本学を希望する学生の確保を目指している。また、京都八幡高校との提携を結んでいるが、実際の取り組みは今後の課題となっている。

京都文教短期大学

平成25年度は、本学の建学精神を基盤として、社会のニーズに応えることの出来る人材を育成し、地域社会に貢献する短期大学を目指した事業を推進した。

1. 建学の精神の涵養：

- (1) 「自校史を学ぶ」は第3訂の印刷を終え、「自校史を学ぶ」の授業の教科書として使用し、「建学の精神」の涵養に努めた。本学が歩んできた歴史について、あらゆる角度からの理解を目指し、本学で学ぶことの意義について考え、さらに自分自身の内面に気づくことによって「他者に優しい心豊かな生き方」について考えることを周知した。

2. 教育・研究の充実と活性化のための事業：

- (1) 平成25年度は「ライフデザイン学科」「食物栄養学科」の新カリキュラムが開始された。ライフデザイン学科ではユニット科目の充実を図り、食物栄養学科においては栄養士資格に合わせ、「食育実践ユニット科目」「食ビジネスユニット科目」を設け、従来の資格と併せて「家庭科料理技能検定2級」「レストランサービス技能士3級」、そして本学独自の認定資格「食育実践スペシャリスト(商標登録第5578567号)」を取得できることになった。
- (2) FD、SDの活動は本学教育に携わる全ての教員・職員が今まで以上に相互理解しあえる話し合いの場を新たに設けた。8月の研修会はメインテーマ『学生の社会人力育成の現状～学科学生の特徴から～』を掲げ、3学科より学科での課題の検討と改善の方途について現状報告を行った。年度末の3月には今年度のFD、SDの取り組みを報告しあい、一年間の活動を相互に点検・評価していく場を設けた。

3. 学生支援事業：

- (1) 入学前教育及びリメディアル教育を行い、効果的な教育支援の充実を図るとともに、各種の資格取得支援講座を行った。

4. 地域連携事業：

- (1) 子ども連れで利用しやすい施設の整備や、地域で子育て支援に積極的に取り組む団体として、京都府の児童福祉行政の推進に協力した本学「にこにこルーム」に『第7回京都府子育て支援表彰』が平成25年9月10日に授与された。
- (2) 地元宇治市の教育振興基本計画策定委員会、食育推進協議会、児童育成計画推進協議会等に本学教員が委員に任命され、また研修会や講演会講師を派遣することができた。

5. 短大評価に関わる事業：

- (1) 平成25年度は短期大学基準協会による第三者評価を受けた。昨年度から自己点検・評価報告書を作成し、報告書を短期大学基準協会に提出した。5名の評価員が9月10、11日の2日間に渡って訪問調査を実施された。平成26年3月13日付で「適格」の評価を得た。
- (2) 平成22年度文部科学省採択の本学「大学生の就業力育成支援事業プログラム」取組内容の視察のため、韓国安東市からカトリック上智大学教職員23名が平成26年1月23日に訪問された。本学の入学前教育、キャリア教育、就職状況などについて具体的な意見交換が行われた。

6. 施設・設備事：

- (1) 至道館PC教室2室の内、4階PC教室に61台を全て入れ替え、5階PC教室に4階のコンピュータを移動し、経費削減を図った。コンピュータを入れ替えることで授業の円滑、コンピュータ検定講習等各種講習の多様にも耐え、学生の自学自習の促進を図ることができた。
- (2) 大学の新学科設置に伴い4号館耐震工事と1階教室2室と3階1室を改修した。また大短講義室の確保を図り、14号館耐震と改修を行い収容120名程度の講義室を4室整備した。

至道館 4 階PC教室



4号館1階 図画工作室



4 号館 1 階 理科室



4 号館 3 階 家庭科室



14号館 講義室 120名収容 4室



14号館 外観南西面 耐震工事
エレベーター設置 歩道整備



- (3) 情報セキュリティに関する強化を図った。情報漏洩を防止するためにも、利用者自身によるパスワードの変更が出来る仕組みの導入を行った。また、各サービスに連動し、一つのユーザID、パスワードで各サービスが利用できる仕組みの導入（統合認証基盤）を行った。

京都文教高等学校・中学校

生徒の学校生活での満足度を上げることを念頭に【建学の精神】のもと情操豊かで向学心溢れる生徒を育てるために、全教職員が結束し日々教育にあたった。

中学課程では3年間を通して、課外学習を計画的・体系的に配置し、自然や社会の現実に触れ、文化・芸術を通して感性を養うと同時に、学力の定着により、高等学校入学試験結果が外部中学校生徒よりも上回るよう、学習指導に努めた。

高校課程では各コースの特徴を活かしたキャリア教育を推進させながら各コースの進路達成に向けて学習させ、進路実現に努めた。

1. 安心・安全な学校づくり

- ・いじめ防止対策推進委員会を設置し、いじめ防止推進担当・重大事態発生時の調査担当を置いた。

2. 基本的生活習慣の定着

- ・怠惰による遅刻・欠席をなくすため、日々の出欠状況を確認し指導を行なった結果、前年度比約5%減少した。
- ・校内の清掃美化の徹底を図るため、教員が先導して清掃を行なった。
- ・校内での挨拶励行を推進するため、教員からの声掛けを行なった。

3. 中学校での良好な人間関係の構築（宗教情操教育の充実）

- ・文化、芸術を通して感性を養うために芸術や映画の鑑賞会、能体験等を実施した。
- ・ボランティアの日を設定し近隣の清掃活動を行なった。
- ・中学校3年生までは、クラブ活動全員参加を必須化し、指導を行なった。

4. 全共学化に伴う男子クラブ活動の活性化

- ・活動時間・場所の再検討を行ない、公平に使用できるようにした。

5. HR（ホームルーム）の改善、集団における個々の責任感を育成

- ・学年目標や学級目標を設定し、日々のHR指導にあたった。
- ・教育環境の整備（掃除の徹底）に注進した。
- ・保護者会行事への担任教員の積極参加を促し、成果を得た。

6. 英検受検・漢検受検の必修化

- ・積極的に受検を働きかけ、事前指導・事後指導を行なった。結果は以下のとおり。

英検	準1級	2級	準2級	3級	4級	5級
中学		4	17	54	102	70
高校	3	39	111	236	79	22
漢検	準1級	2級	準2級	3級	4級	5級
中学			10	39	76	90
高校		18	137	179	45	11

7. モーニングクイズ（MQ）朝学習の充実

- ・学年、コースにより内容を設定。特に検定前の指導は有効であった。

8. 京都文教大学、短期大学との連携システムの充実

- ・現システムの問題点と今後の方針等確認を行ない、より充実したシステム作りを行なっていくこととした。

9. 進路実績の向上（体系的な進路学習、指導体制の構築）

- ・学力伸長委員会での模試情報の分析を基に、目的を意識した進路決定に向けた指導を行なった。結果は別紙のとおりである。

10. C・C主任の役割強化（コース毎の取り組みによる学習意欲の向上に努める）

- ・コース目標の具体化を実践するための具体的実践的指導案を作成し、FD・学年と共有、学習指導に役立てた。

11. 教科指導力向上（FD）の活性化

- ・研究授業の実施や授業アンケート結果の活用、授業改善の助言を受けることで指導力向上に役立てた。

12. 学習サポート体制の強化（高校サポートセンター・中学bururuコーナーの活性化）

- ・非常勤講師を配置し、指導体制の充実を図った。

13. 生徒募集事業の強化

- ・同窓生推薦制度を見直すなどし、中学生93名、高校生372名の入学者を得た。
- ・広報活動の活性化

ホームページをスマートフォン対応にするなど、更なる充実を行った。

SNSを積極的に利用し、学校の日々の様子を広報した。

14. 学校評価の実施

- ・生徒によるアンケート・学校生活アンケート・入学者対象アンケートを実施し、全教職員で結果を共有、問題意識をもって対応することとした。

15. 施設・設備関係

- ・第一体育館耐震改修工事を完了した。
- ・食堂厨房機器取替を行った。
- ・温水プール ポンプ・濾過材取替を行った。



京都文教短期大学付属小学校

仏教情操教育を基盤として、知・徳・体の調和のとれた豊かな児童の育成を目指し、「明るく・正しく・仲良く」の生き方を培う教育活動を推進。

1. 教育課程

①宗教情操教育

宗教情操教育は「明るく・正しく・仲良く」の仏様の教えを守る仏の子として精進努力することを基本として学校の教育活動全体を通じて推進した。

毎週水曜日の礼拝の後、「月影」の時間と名付けた宗教の1時間を持った。その「月影」の時間は行事や児童会活動・教科学習と横断的に関連を持たせ、「共生・人権・命」を内容とする総合単元的学習の要となる。

特に、児童会活動に縦割り活動を組み込み、やさしい人になってほしいという願いの下、共生の活動の基礎を培っている。また、今年度より、縦割り活動にれんげ活動と名前を付け内外にアピールした。子ども達には花咲山のお話から「縦割り活動では下学年のことを思い、時に辛抱やがまんをしてれんげの花を咲かせよう」とれんげ活動の意味づけを話し、行動実践させた。

1年生お迎え集会をれんげデビュー集会に 縦割り班顔合わせ・・・4月

知恩院参拝・・・4月・2月

縦割り「れんげウキウキウォーキング」・・・5月

学期に1回の「れんげスクールランチ」

盲導犬育成への支援4年・児童会・・・11月

縦割り「れんげ全校遠足」・・・10月

ボランティア集会（バザーでの活動）5・6年

月かげ集会（いのちを見つめる児童会総会

共生の心を育む「傷ついていませんか・傷つけていませんか」）児童会・・・12月

お年寄りの方との交流学习3年・・・2月

6年生ありがとうの会・ありがとう茶会・・・3月

②各教科・行事等による学力の向上

基礎基本の学力習得を重視し、朝の「ねっこタイム」で繰返し習熟学習を、放課後の「のびっこタイム」で補充学習を実施した。

算数では1～5年生においてT.T授業や等質の少人数（20人）指導を実施した。

特に習熟度別編成を取り入れる。6年生では習熟度別編成で受験学力に対応した授業を実施した。

過去より、全学年、1分スピーチに取り組み、「学びと力の発表会」でのスピーチにつなげている。この発表会では各学年より3名ずつスピーチを行っている。

さらに、全児童の1年間の話す力の発信の場として、2月の書き初め・版画作品展において親子作品鑑賞会を持ち、自分の作品はもちろん、友達の作品についても意見や批評を行った。

（新学習指導要領「あらゆる教科で言語力の育成を！」を受けての取り組み。）

○入試対策として、年中園児保護者様に、この親子鑑賞会を公開した。

また、思考力・表現力育成の一環として、月かげ集会を児童会総会の形で持ち、学級活動から吹き上がる発言力・議事進行の力・ロールプレイをする力等を育成した。

特に今年は全学年が学級の問題からロールプレイを発信した。

国語においては、自力読みができる子をめざし、物語分や説明文の指導の体系化を図り、研修を実施。

「深く考え表現できる子」を本校研究目標に掲げ、あらゆる教科で考えさせる授業、言語表現させる授業の実践を図った。

「指導があつての評価」ということを共通理解し、指導したことをもとに自作テストを作成し、見取りを行う評価に取り組んだ。

③茶道をとoshした礼法学習

1年から6年まで11月から2月に茶道を通した礼法学習を行った。

1年生は「班長さん（6年）ありがとう茶会」に向けて12時間。

2年生は仕上げの「おうちの人ありがとう茶会」に向けて18時間。

3・4・5年生は2時間ずつ。6年生は1年生と「ありがとう茶会」2時間。

裏千家学校茶道・淡こう会に、2名の先生と2名の助手を招請した。

多目的質「和」に、35畳の畳を敷き実施した。

学年ごとに1名の先生と2名の助手と担任で指導に当たった。

○月影祭バザーにおいて3・4年生有志がお茶席のお運びを手伝った。

④英語の時間

各学年週1時間の英語の時間を持ち、1・3・5年においてはネイティブ教師1名と英語専

科教師1名で指導に当たり、2・4・6年では前学年での学習を英語専科教師1名で定着を図った。

今年度から、3・5年に置いて、国際理解としてプラス1時間の英語学習を行った。

その他、各学年、週1回20分の「ねっこイングリッシュ」を持ち、月曜4時から30分間の高学年ASE、木曜4時から30分間の低学年のASE(アフタースクールイングリッシュ)を持ち、習熟を図った。

1月に英語授業参観を2日間にわたり実施した。

保護者を対象に授業への評価アンケートを実施した。意見を頂き、英語学習への関心を醸成できた。

3・4・5・6年では、学年末にポートフォリオ評価表に英語(話す・聞く)の評価を記入した。(児童の自己評価・教師の文言評価・ABCの観点別評価)

⑤総合的学習

子供たちは、課題解決や探究活動に主体的に取り組み、チームワーク力や調べ方まとめ方に身につけ、その成果を発信する「学びと力の発表会」において、表現力や創造力をも育んだ。

⑥情報教育

1年生からパソコンの起動やマウスを使つての操作学習を行った。

1・2年生はカード作りを楽しんだ。

3年生からローマ字入力のキーボード操作に取り組んだ。高学年では、インターネット検索を学習し、ネットのエチケットなどを学習した。

図鑑や辞書・辞典の活用についてもカリキュラムとして盛り込んで実施した。

⑦体力の増進

朝のねっこタイムにおいて、各学年は、週1回、マラソンに取り組んだ。

中高のグラウンドを走る取り組みを実施した。

水泳学習は、中高の温水プールで2週間にわたり実施した。(9月初旬)

課外活動として毎週火曜日と金曜日にサッカーとバレーボールのスポーツ教室を実施した。

月に1回、希望者参加のサタデーサッカーを実施した。

全校ドッジボール大会・・・5月、12月

琵琶湖自然教室4年・・・7月

大江山自然教室5年・・・7月学期末

耐寒大文字山登山2・3年・・・2月

2. 教職員研修

①教員研修

○読解力・自力読みの力を育む説明文・物語文の指導内容の体系化について研修した。

○思考力・判断力・表現力を育む授業の実施と見取りの自作テストを作成した。

○指導と評価の一体化について研修した。

○月影集会に向けて学級活動の言語・ロールプレイ等の表現力の活性化について研修した。

月影集会で発信する心の力を「勇気」に絞って学級活動を立ち上げることの研修をした。

○いじめ防止対策基本法の施行(9月)を受け、本校の「いじめ防止基本方針」を作成し、未然防止と早期発見の実践について共通理解を図る研修をした。

○学校評価での適正な自己評価力をもつことの研修をした。(PDCAサイクルを含む)

3. 進路指導・・・卒業生39名

内部進学者は19名、内、京大医歯薬コース4名 特進コース14名 進学コース1名

灘中学校/東大寺学園中	1名	帝塚山中学校	1名
洛星中学校	2名	立命館宇治中学校	1名
同志社中学校	8名	府立洛北高校附属中学校	1名
同志社女子中学校WR	1名	京都聖母学院中学校(Ⅲ類)	1名
京都女子中学校	1名	高田学院高田中学校(三重県)	1名
同志社女子中学校	2名		

4. 児童募集

「文教小GO GOランド」として5月から7月の間にキッズサッカー・親子スタンプラリー・学校説明見学会・サイバーホイール&スクールランチ体験を呼びかけ実施した。

8月の最終土曜日には、「ワイド父親講座in知恩院」として、本校の父親だけでなく園児父親にも声かけをし、多数の参加を得た。

入試説明会を例年の金曜日から土曜日実施に変え、9/14（土）に子ども達や文教ファミリーの力を見てもらう発表会と併せ実施した。

平成26年度生 入試結果

項 目	男 子	女 子	合 計
応募者数	29名	26名	55名
合格者数	23名	17名	40名
入学者数	23名	17名	40名

5. 学園としての連携

短期大学との連携 栄養士実習を受け入れた。（9月、2月の2回 1週間ずつ）

大学 文化人類学科との連携

1月の本校グローバル週間の期間中、中国・エチオピア・インド展を開催した。

6年生は播教授とゼミの学生4人より中国の話聞いた。

5年生は松田教授よりエチオピアの話聞いた。

4年生は杉本教授よりインドの話聞いた。

大学 臨床心理学科（小学校免許取得に関わって）

次年度の連携に向け、小学校行事見学：学びと力の発表会Ⅱを30名の学生が見学し、後片付け奉仕と評価アンケートの記入をしていただいた。

6. 施設・設備

1・2・3・4年教室を改修した。（戸・窓パーテーション、壁・天井塗り替え、照明）

1階洗面所・トイレ手洗いを改修した。

2階洗面所を改修した。

体育館前トイレを保護者用トイレに改修した。

保健室の戸・窓パーテーションを改修した。

造形室の戸を改修した。

2階学習室の戸・窓パーテーションを改修した。



京都文教短期大学附属家政城陽幼稚園

この数年、保育関係者の間でもつばらの話題となっていた「子ども・子育て新システム」。検討の末、子育て関連三法が公布され、総合こども園に代わって現行の幼保連携型認定こども園が拡充されることに決まった。

先に公布された新法は、消費税財源を活用して子ども・子育て支援事業の充実を図るという方向性は踏襲されると考えられるものの、今後の動向が注意される場所である。

このような背景のなか、これから幼稚園・保育園・認定こども園等はどのような方向を選び、どこに進んでいくのか、何を指標にその方向性を定めていけばよいのか、思い悩む所である。

平成25年度組別編成は、5歳児（きく組21名・ふじ組21名）4歳児（ゆり組24名・うめ組23名）3歳児（たんぽぽ組21名・ひまわり組21名）在園児131名でスタートした。

本年度の保育目標のやさしい笑顔で『いつもニコニコやさしい声かけ』『いつもニコニコやさしい眼ざし』を注意点とした。

入園、進級期は、保護者の不安や期待に応える体制づくりとして、園だより、クラスだよりを活用した。園の様子を文字を通して伝える園だよりは、園の方針や園全体で見られる子どもの様子などを伝え、クラスだより（学年だより）では、身近な子どもの様子などを伝える。とにかく速報性をもって、家庭と連絡を密にとることが保護者の信頼を獲得する第一歩と考える。

平成25年度の子どもの姿

核家族、少子化の中で育ってきている幼児がほとんどである。明るく元気で人なつこい。友達と遊びたい気持ちはあるが、自分の思いがうまく表現できず友達との関わりが持ちにくい幼児の姿もみられる。保護者の多くは、入園前に何度か園を見学したり、子育て支援事業に参加する中で園の教育方針に理解を示し、子どもを入園させている。多くの母親が大変教育熱心である。仏教精神の教えへの理解と、保育内容の充実に変えて協力をお願いしたと考える。

5月に年長組は知恩院を参拝した。（今まで無事に過ごせたこと、残り1年を無事に過ごせるように、年長としての自覚と年中、年少組に明るく、正しく、仲良くすることを佛前にて報告）また、親子の花まつりを二日間実施し、特に年少組を対象に本園が仏教園であることをアピールした。

1・通常預かり保育『スマイルKids』実施（二年目）

- ・預かり保育を希望する場合は、事前申込の登録が必要。
- ・年間登録料 1,000円
- ・費用1回 300円
- ・預かり保育時間（月・火・木・金の午後保育の日）午後2時15分～午後4時45分まで
- ・一日の定員数20名（最大25名）
- ・本年度『年間135日 2,344名 平均17.3名』
- *平成26年度より水曜日も検討中

2・子育て支援活動（城陽市広報掲載）

『ぱんだクラブ』～幼稚園で先生と一緒に遊びましょう～

就園前のお子さんを対象に幼稚園を開放し、親子で安全にのびのびと遊んでいただける（ぱんだクラブ）の活動を開催した。

同じ年齢のお子さんを持つ保護者同士は交流を深め、幼稚園での楽しい時間を過ごした。

参加登録者（21名）

第1回	5月18日（土）	第2回	6月15日（土）
第3回	7月25日（土）	第4回	9月7日（土）
第5回	10月12日（土）	第6回	11月30日（土）
第7回	12月14日（土）	第8回	1月18日（土）

3・『ひよこクラブ』未就園児 親子で遊ぼう教室 11年目
(平成26年度入園予定者)

本園では、子育て支援事業の一環として在園児の弟妹を対象とした就園前保育を実施し、『ひよこクラブ』として活動しました。

登録者(14名)

開催日	5月18日	6月25日	7月 9日	9月12日
	10月 6日	10月26日	10月29日	11月17日
	11月18日	11月26日	12月 4日	12月11日
	12月18日	1月16日	1月31日	2月16日
	2月17日	2月19日		

合計16回開催 午前10時～午後12時まで

平成26年度 幼稚園入試状況

		募集人数	志願者数	受験者数	合計者数	手続完了	入園予定数
年少	3年保育	60	38	38	38	37	36
年中	2年保育	10	2	2	2	2	2
年長	1年保育	若干名	1	1	1	1	1
	合 計		41	41	41	40	39

年少手続1名辞退 辞退者1名 合計2名